

## きんきゆう じ 1 緊急時

きゅうきゅう かじ こうつうじ こ どうなん はんざい ばあい おつ はつ  
救急、火事や交通事故、盗難などの犯罪にあつた場合は、あわてずに落ち着いて SOS を発しましょう。





きんきゆうじ れんらくさき たいしょほうほう せつめい  
ここでは、緊急時の連絡先と対処方法について説明します。

### きゅうきゅう かじ こうつうじ こ はんざい さい きんきゆうでんわ 1-1 救急、火事や交通事故、犯罪の際の緊急電話

#### きんきゆう (1) 緊急ダイヤル

きんきゆうでんわ つぎ ばあい おう ばんごう き じかんうけつけ  
緊急電話は、次の4つの場合に依じてそれぞれ番号が決められています。いずれも24時間受付となつています。

#### きんきゆう ● 緊急ダイヤル

<p>きゅうきゅう 救急</p> <p>119 <small>ばん しょうぼう</small> 番(消防)</p> <p><small>(きゅうびょう)</small> 急病やけがなど <small>(きゅうきゅうしゃ (ひつよう) (ばあい)</small> 救急車を必要とする場合</p> 	<p>かじ 火事</p> <p>119 <small>ばん しょうぼう</small> 番(消防)</p> 
<p>こうつうじ こ 交通事故</p> <p>110 <small>ばん けいさつ</small> 番(警察)</p> 	<p>はんざい 犯罪</p> <p>110 <small>ばん けいさつ</small> 番(警察)</p> 

きんきゆうよう ばんごう そうだん と あ きゅうきゅうしゃ むりよう  
あくまで、緊急用の番号です。相談や問い合わせのためにはダイヤルしないでください。救急車は無料



となっていますが、マイカーやタクシーで運べるぐらいの軽い病気やけがの場合は、利用できません。

### (2) 対応電話

固定電話、公衆電話、携帯電話、PHSのいずれからも119番、110番にかけられます。

公衆電話からは、住所を伝えなくても発信地の住所が自動的に分かります。

### ●公衆電話からのかけ方

公衆電話の「緊急用通報ボタン」を押すと、硬貨やカードは不要です。受話器を上げて、赤い「緊急用通報ボタン」を押してから、「119」「110」をダイヤルします。



## 1 緊急時

### 1-2 緊急時のそなえ

#### (1) 緊急個人カード

緊急時のために、自分に関する大切な情報を記入した「緊急個人カード」を作成し、つねに携帯しておきましょう。必要な項目としては、自分の名前、性別、生年月日、血液型、家の住所、家の電話番号、携帯電話番号、国籍、保険証番号、外国人登録番号、パスポート番号、使用可能言語、緊急連絡先などです。

#### 緊急個人カード

なまえ 名前	じゅうしょ 住所	でんわばんごう 電話番号 けいたいばんごう 携帯番号							
こくせき 国籍	せいべつ 性別	おとこ 男	おんな 女	せいねんがっぴ 生年月日	ねん 年	つき 月	にち 日	けつえきがた 血液型	がた 型
がいこくじんとうろくばんごう 外国人登録番号				ばんごう パスポート番号					
(ほけんしょうばんごう 保険証番号)		きんきゅうれんらくさき 緊急連絡先							
(しょうかのうげんご 使用可能言語)									

#### (2) 緊急時の通報内容

119番、110番にダイヤルすると、消防車やパトカーが行くべき場所について聞かれます。落ち着いてゆっくりと、大きな声で話してください。日本語で説明できないときは、日本語を話せる知人や近くの人に頼みましょう。自分の住所については、日ごろから日本語で話せるように練習しておきましょう。また、警察、消

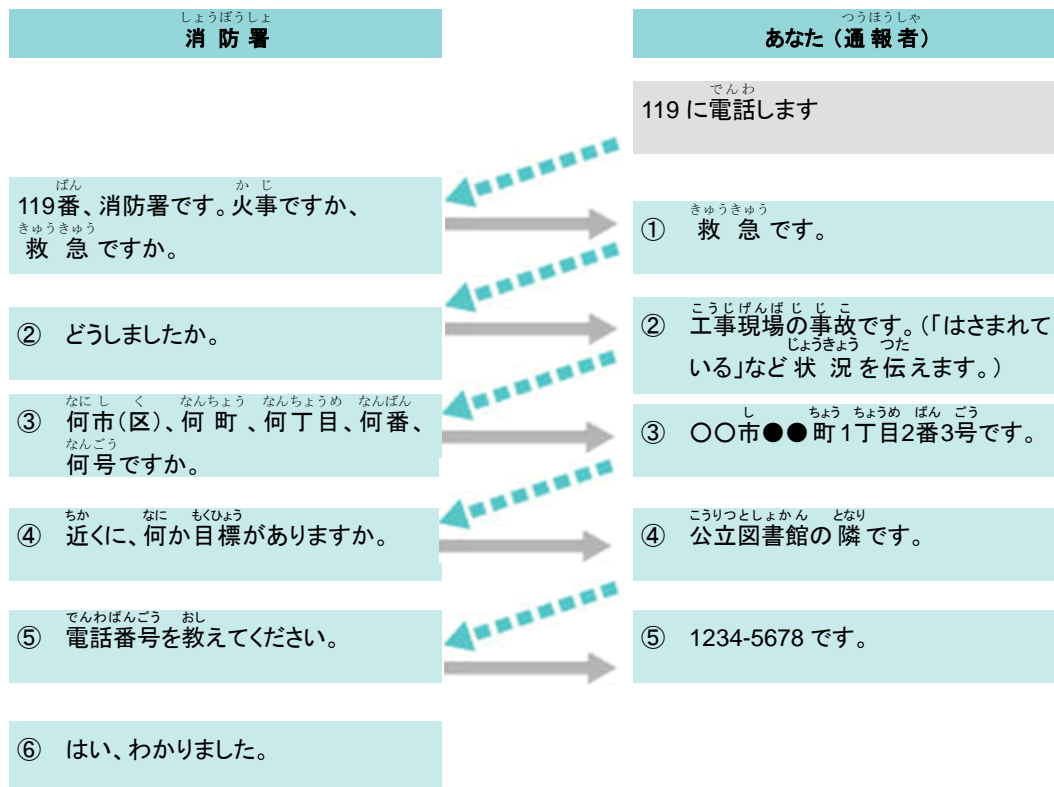
ぼう ばしょ つた                      ちか    めじるし    たてもん    つた    はや    とうちやく  
防へ場所を伝えるときは、近くの目印となる建物などを伝えると早く到着することができます。

## ●119番 消防に通報するとき

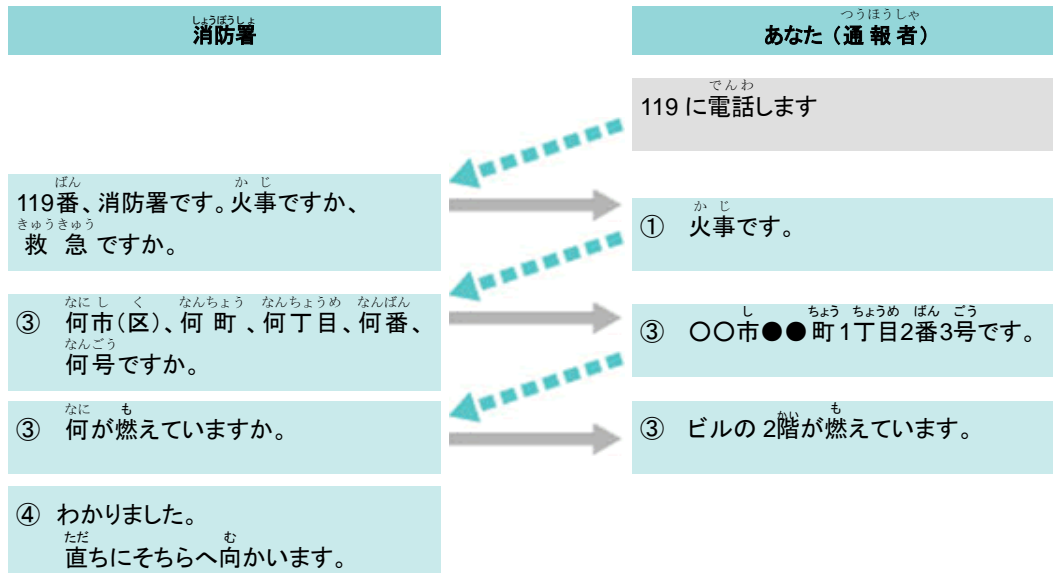
いか    じゅんじよ    つた  
以下の順序で伝えます。

- か    じ    きゆうきゆう  
1 火事か救急か
- ばしょ  
2 場所はどこか
- じぶん    なまえ  
3 自分の名前

## きゆうきゆうしゃ                      つうほうもんどうれい 救急車を呼ぶときの通報問答例



## 消防車を呼ぶときの通報問答例



## ●110番 警察に通報するとき

以下の順序で伝えます。

- 1 何が起きたか(交通事故か犯罪かといった状況)
- 2 場所はどこか(起きた場所または住所)
- 3 自分の名前

※けが人がいる場合は、警察に通報することで、救急車の手配をしてくれます。



## 1 緊急時

### 1-3 救急

[医療 2-1 急病やけがなどで救急車を必要とするとき](#) [参照](#)

### 1-4 火事

#### (1) 火事のとき

火事のときは、「火事だ」と大きな声で近所の人に知らせましょう。天井に火が燃え移るなど自分で消せそうもない場合は、すぐに消防署(119番)に電話で通報してください。

#### (2) リ災証明について

火災で大切な建物や家財が燃えたとき、火災保険の請求や税の減税、免税の手続などをするために、「リ災証明書」が必要となることがあります。「リ災証明書」は、消防職員が火災現場を確認・調査していないと発行できません。申請を行う前に、各消防署に詳細を問い合わせましょう。



## 1 緊急時

### 1-5 交通事故

#### (1) 被害者(被害を受けた側)となったとき

[N 交通 5-1\(2\)交通事故にあった場合](#) 参照

#### (2) 加害者(事故をおこした側)となったとき

[N 交通 5-1\(1\)交通事故を起こした場合](#) 参照

#### (3) 交通事故証明書の取得

「交通事故証明書」は、交通事故があったことを自動車安全運転センターが証明するものです。保険会社や会社に請求するときなどにも必要になります。申込用紙は事故現場の警察でなくても、お住まいの近くの交番にもおいてあります。

請求する人は、被害者・加害者・損害賠償請求権のある親族・雇い主・保険金の受取人などでもかまいません。警察へ届け出ていない交通事故は証明書をもらえませんので、ご注意ください。

### 1-6 犯罪

ひったくりや空き巣はもちろん、暴行やストーカー行為、暴力団などから被害を受けた場合は、早めに近くの交番か警察署までご相談ください。緊急の場合は110番通報をしましょう。



1 緊急時

1-7 その他の緊急時(紛失など)

(1) パスポートを紛失したとき

パスポートを紛失したときは、すみやかに「遺失届出証明書」を近くの警察で発行してもらってください。その後、母国の在日大使館・領事館で再発行の手続きをとります。そのとき、遺失届に記載されている受理番号が必要になりますので、必ずメモをとるか、紛失届の控えをお持ちください。

(2) 外国人登録証明書を紛失したとき

外国人登録証明書は個人情報に記載されているので、悪用されるおそれがあります。なくした場合は、至急近くの警察署か交番に紛失したことを届け、紛失した日から14日以内に居住地の市区町村の役所で再発行の手続きを行ってください。

また、外国人登録証明書が割れたりした場合にも作り直すこととなります。その場合も、今まで使っていた外国人登録証明書を持参し、市区町村の役所で再発行の手続きを行ってください。(B 外国人登録

5-1 再交付申請 参照)

(3) キャッシュカードなどを紛失したとき

キャッシュカードなどを紛失したときは、すみやかに「遺失届証明書」を近くの警察で発行してもらいましょう。また、すぐに銀行やクレジット会社まで連絡し、取り引きを中断してもらいましょう。

(4) 忘れ物、落し物をしたとき

近くの交番か警察署に行き、問い合わせてください。電車やバスの中で落し物や忘れ物をした場合は、直接駅員や乗務員、または運行会社まで問い合わせてください。

交番や警察署に届けられた落し物や忘れ物の情報は、各警察署ごとにまとめられ、落としした人が3か月以内に取りに来なかった場合は、届けた人のものになります。落し物をした場合は、なるべく早く、警察署や交番まで問い合わせてください。



## 2 自然災害時

日本は、地震の発生が多い国のひとつです。いつどこで地震が起きても不思議ではありません。また、夏から秋にかけては、多くの台風がやってきます。こういった自然災害での被害を少なくするためには普段から防災対策をととのえ、いざというときは落ち着いて行動することが大切です。

### 2-1 地震

日本は世界でも有数の地震の多い国です。また、地震にともない津波が発生することがあります。

#### (1) 地震の揺れの大きさ

震度は、地震動の強さの程度を表すもので、現在10段階あります。数字が大きいほど強い揺れとなります。

震度階級	揺れの程度	震度階級	揺れの程度
0	人は揺れを感じない 	5弱	多くの人が身の安全を図ろうとする。家具が移動することがある。 
1	屋内にいる人の一部がわずかに揺れを感じる。 	5強	多くの人が行動に支障を感じる。タンスなどが倒れることがある。 
2	眠っている人の一部が目覚めます。電灯などの吊り下げものがわずかに揺れる。 	6弱	立っていることが困難になる。固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。 
3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。棚の食器が音を立てることがある。 	6強	這わないと動くことができない。多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。 
4	眠っている人のほとんどが目覚めます。電灯は揺れ、棚の食器は大きく音を立てる。 	7	自分の意思で行動できない。ほとんどの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。 

また、大きな地震（本震）の後、何度も揺れが起こります。これを「余震」といい、まれに本震の揺れと同程度ゆれたり、何度もゆれたりすることがあるので、警戒が必要です。



### (2) 地震が発生したとき(行動マニュアル)

発生時の状況	行動マニュアル
屋内	<ol style="list-style-type: none"> <li>ぐらっときたら、机の下にもぐるなどして、まず身の安全を図る。</li> <li>揺れがおさまったら、すばやく火を始末。</li> <li>戸口をあけて出口の確保。</li> <li>外に出るときは落下物や倒壊物に注意して、あわてずに行動する。</li> <li>徒歩で避難場所へ移動。</li> <li>近くの人と協力してできること(応急救護)をする、できるだけラジオなどで最新の情報を入手する。</li> </ol>
エレベーターの中	<ol style="list-style-type: none"> <li>全部の階のボタンを押してみる。</li> <li>止まったところで降りられないか試す。</li> <li>電気が止まってドアが開かない場合は、「非常用連絡ボタン」を押し続けて、連絡を待つ。</li> </ol>
屋外	<ol style="list-style-type: none"> <li>看板などの落下物やブロック塀などが倒れてくる危険性もあるので注意。</li> <li>上下左右を確認し、近くの最も安全と判断できる場所で身を守る。</li> </ol>
車を運転中	<ol style="list-style-type: none"> <li>ハンドルをしっかりと握って徐々にスピードを落として停車させる。</li> <li>救急車や消防車などの緊急車両が通れるよう、道路の中央はあけておく。</li> <li>キーはつけたまま、ドアロックはせずに、徒歩で避難する。</li> </ol>
電車などの車内	<ol style="list-style-type: none"> <li>つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる</li> <li>電車が線路の途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。</li> <li>運転士や乗務員の指示に従う。</li> </ol>

### (3) 地震の二次被害に備える

地震の二次被害としてもっとも多いのが、火災です。火災を防ぐためには、すばやく火の始末をすることが



大事です。大きな揺れがおさまったら、使用中のガス器具、ストーブなどをすばやく消火しましょう。ガス器具は元栓を締め、電気器具は電源プラグを抜きましょう。避難する場合は、ブレーカーを切ってから避難します。万が一出火したら、隣近所に声をかけ、協力しあって初期消火につとめましょう。

また、地震のあとは津波が発生することがあります。津波は、ラジオやテレビの情報よりも早くやって来ることがありますので、揺れを感じたときは、直ちに海岸から離れ、急いで高台など安全な場所へ避難しましょう。また、津波は2回、3回と繰り返し襲ってきます。津波がきたら1回目です。警報や注意報が解除されるまで、海岸付近には近づかないでください。



2 自然災害時

2-2 台風

台風は、7～10月ごろに発生し、豪雨や暴風が吹き荒れます。土砂崩れや洪水が起きることもあります。また、飛来物による負傷や高潮などの恐れもあります。

(1) 台風

東経100度から180度の間の太平洋、南シナ海で発生した熱帯低気圧で、中心付近の最大風速が17.2m/s以上のものを台風(typhoon)と呼びます。ハリケーンやサイクロンと同様のもので、時には大災害を引き起こすので注意が必要です。

日本周辺の平均気圧は1013hPa(ヘクトパスカル)ですが、台風が近づいてくると、気圧は低くなります。気圧が低いほど風雨が強くなる傾向にあります。

日本では台風の風は、反時計回りに吹いています。風の強さは、台風の進行方向に向かって右側では、台風自身が巻き起こす風と台風を移動させる風の向きが同じため、左側よりも強くなっています。台風の進路によっても被害の大きさはだいぶ変わってくるので、天気予報を見るなどして台風に備えましょう。

また低気圧による海面上昇と風の強さのため、海岸近くでは高潮にも注意する必要があります。海面の高さは気圧が1hPa低くなると海面は1cm上昇し、風速の2乗に比例して高くなります。さらに満潮の時刻と重なると深刻な被害をもたらす事もあるので海には近づかないようにしましょう。

(2) 台風の強さ

台風による風の強さは、中心付近の気圧等を参考にし、主に最大風速で表します。

強さの種類	中心気圧(hPa)	最大風速
弱い台風	990～	17.2～25m
並みの台風	950～989	25～33m
強い台風	930～949	33～45m



強さの種類	中心気圧 (hPa)	最大風速
非常に強い台風	900~929	45~50m
猛烈な台風	~900	50m 以上

### (3) 台風の階級 (大きさ)

台風の大きさは、次のように表されます。「強風域」とは風速が 15m/s の地域を指す言葉で、それ以上強い風が吹く地域は「暴風域」といわれます。

階級	強風域の範囲
(表現しない)	500 km未満
大型・大きい	500 km以上 800 km未満
超大型・非常に大きい	800 km以上

### (4) 風の強さ

台風による風の強さと被害想定は、次の通りです。

平均風速	人への影響・建築物などへの被害
風速10m/s	傘がさせない。取り付けの不完全な看板やタンが飛びはじめる。
風速15m/s	ビニールハウスが壊れ始める。看板やタンが飛びはじめる。
風速20m/s	子供は飛ばされそうになる。身体を 30度くらいに傾けないと立てられない。
風速25m/s	小枝が折れる。鋼製シャッターが壊れはじめる。風に飛ばされたもので窓ガラスが割れる。 瓦が飛び、テレビアンテナ、煙突が倒れる。ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装がはがれ、飛びはじめる。
風速30m/s	雨戸がはずれ、屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊がはじまる。電柱が倒れる事がある。
風速35m/s	列車の客車が倒れることがある。

平均風速	人への影響・建築物などへの被害
風速40m/s	身体を45度くらいに傾けないと立てられない。小石が飛ぶ。
風速50m/s	たいていの木造住宅が倒れる。樹木は根こそぎ倒れる。
風速60m/s	鉄塔が曲がることもある。

## (5) 降水量の目安

台風による降水量と、実際の状況は次の通りです。

1時間あたりの降水量	実際の状況
5～10 mm	水溜りができる。雨音がよく聞こえる。
10～20 mm	雨音で話が聞こえないことがある。長雨の場合、災害の警戒が必要。
20～30 mm	下水があふれ、小さな川は氾濫することがある。がけ崩れの危険がある。
30 mm 以上	バケツをひっくり返したような豪雨。避難準備をし、危険だと思ったら自主的に避難すること。

## (6) 台風がきたとき

1. 雨戸やシャッターがあれば閉めておく。
2. 強風のときは外出しない。
3. 常に最新の気象情報をチェックし、2.に関わらず、避難勧告の指示などがあれば、すみやかに避難する。
4. 折れた電柱や垂れ下がった電線には近寄らない。



## し ぜんさいがい じ 2 自然災害時

おおゆき ごうせつ

### 2-3 大雪・豪雪

さむ ちいき とく ほくりく どうほく にほんかいがわ ほっかいどうちほう がつ がつ ゆき つ とし  
寒い地域、特に北陸から東北の日本海側と北海道地方は、12月～3月に雪が積もります。年によっては  
いじょう ゆき ごうせつ もくぞう かおく お じこ お  
5メートル以上もの雪がふる「豪雪」になり、木造の家屋が押しつぶされる事故も起こっています。

おおゆき み まも

#### (1) 大雪から身を守ろう

ほくりく どうほく にほんかいがわ ほっかいどう ゆきぐに せいかつ ばあい ゆき たいさく にちじょうてき ひつよう  
北陸や東北の日本海側、北海道といった「雪国」で生活する場合は、雪への対策が日常的に必要と  
がいしゆつ さい くつ は りょうて つか じょうたい ある てんとう き  
なります。外出をする際は、すべりにくい靴を履き、できるだけ両手が使える状態で歩き、転倒に気をつけ  
ましよう。

じよせつ おこな たいせつ おおゆき しぼうじこ おお やね ゆきお ちゅう てん  
除雪は、こまめに 行うことが大切です。ただし、大雪による死亡事故の多くは、屋根の雪下ろし中の転  
らくじこ ゆきお ばあい いのちづな すべ ど こてい てんらくぼうしそち ひとり  
落事故です。雪下ろしをする場合は命綱、滑り止め、はしごの固定など転落防止措置をとり、なるべく一人  
おこな いえ しゅうへん じよせつさぎようじ やね お ゆき じゅうぶんちゅう  
では行わないようにしましょう。また、家の周辺の除雪作業時には、屋根から落ちてくる雪にも十分注  
い  
意しましょう。

ゆきみち うんてん

#### (2) 雪道での運転

ゆきみち うんてん こ うんてん い か  
雪道では、なるべく運転しないに越したことはありません。どうしても運転しなければならないときは、以下の  
てん ちゅうい  
点に注意しましょう。

うんてん そうさ おこな きゅうはっしん きゅう きん  
1. 運転のポイントは、アクセル、ブレーキ、ハンドル操作をゆっくり 行うことです。急発進、急ブレーキは禁  
もつ  
物です。

ひろ つうこうりょう おお みち えら  
2. 広くて通行量の多い道を選びましょう。

なが うんてん ばあい てんけん  
3. 長く運転する場合は、ガソリンスタンドなどでバッテリーを点検してもらいましょう。

ゆきみち ていばん くどうりん ほん そうちやく たいへん きけん  
4. 雪道ではスタッドレスタイヤが定番となっていますが、駆動輪のみ 2本だけ装着すると、大変危険です。  
そうちやく さい りん そうちやく しよう  
スタッドレスタイヤを装着する際には、かならず 4輪とも装着するようにしてください。タイヤチェーンを使用す  
ばあい くどうりん そうちやく げんそく  
る場合は駆動輪に装着することが原則です。



## 2 自然災害時

どしゃさいがい

### 2-4 土砂災害

どしゃさいがい たいふう しゅうちゅうごう じしん ゆきど よわ しゃめん がけくず お たいりょう  
土砂災害とは、台風、集中豪雨、地震、雪解けなどにより、弱くなった斜面が崖崩れを起こし、大量の  
どしゃ いっしゅん くず お とく つゆ たいふう おおあめ ちゅうい ひつよう  
土砂が一瞬にして崩れ落ちることをいいます。特に梅雨や台風で大雨になったときは注意が必要です。1  
じかん いじょう ふ はじ いじょう あめ ふ つづ どしゃさいがい きけん たか  
時間に20ミリ以上、降り始めから100ミリ以上の雨が降り続いたら、土砂災害の危険が高くなりますので、  
けいしゃち やまぞ たにぞ す ひと けいかい ひつよう  
傾斜地や山沿い、谷沿いに住んでいる人は、警戒が必要です。



## 2 自然災害時

### 2-5 災害に対する事前準備

#### (1) 緊急個人カード(1-2 緊急時のそなえ 参照)

#### (2) 非常持ち出し品リスト

災害が起こって避難するとき、最初に持ち出すべき、必要最小限の物品を用意し、「非常持ち出し袋」としてすぐ取り出せる場所に置いておきましょう。ほかのものは避難後、安全を確認できてから取り戻すことも可能です。

#### ●非常持ち出し品リスト

##### 貴重品

- カード類
- 現金
- 免許証のうつし
- 健康保険証のうつし

##### 非常食品

- 乾パン
- 缶詰
- 栄養補助食品
- ドライフーズ
- ミネラルウォーター
- 使い捨て食器
- 缶切

##### ラジオ類

- 携帯ラジオ
- 予備電池

##### 電灯

- 懐中電灯
- 予備電池

##### 医薬品

- 絆創膏
- 傷薬
- 包帯
- 消毒薬

##### その他の生活用品

- 肌着類
- 軍手
- タオル
- ティッシュペーパー
- 雨具
- ライター
- ビニール袋

※パスポートと外国人登録証も常に身近に置いて、避難の際に持参しましょう。

紙おむつや生理用品なども必要に応じて準備しましょう。



びちくひん

### (3) 備蓄品

さいがいふっきゆう すうじつかん みっかぶん めやす じそく ひじょうも だ ふくろ べつ そな  
災害復旧までの数日間(3日分)を目安に、自足するために「非常持ち出し袋」とは別に、備えておく  
ものです。

びちくひん

### ●備蓄品リスト

- |                                  |                                  |
|----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 飲料水     | <input type="checkbox"/> ポリタンク   |
| <input type="checkbox"/> 食料品     | <input type="checkbox"/> 卓上コンロ   |
| <input type="checkbox"/> 使い捨ての食器 | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ |
| <input type="checkbox"/> 毛布      | <input type="checkbox"/> ロープ     |
| <input type="checkbox"/> ビニールシート | <input type="checkbox"/> 布製ガムテープ |

※飲料水は1人1日3リットルが目安、食料品はレトルトや缶詰など3日分相当。

ぼうさいくんれん

### (4) 防災訓練

がつ にち ぼうさい ひ がつ にち がつ にち ぼうさいしゅうかん ひ ちいき ぼうさいくんれん せつきよくてき  
9月1日は防災の日、8月30日～9月5日は防災週間です。日ごろから地域の防災訓練には積極的  
さんか ぼうさいこうどうりよく み  
に参加し、防災行動力を身につけましょう。

かくち ぼうさい ぼうさいちしき ふきゅう ひ そな おし  
また、各地の「防災センター」などでは、防災知識の普及や日ごろの備えについて教えてくれます。ビデオテ  
えいが  
ープや映画フィルムなどもあります。



2 自然災害時

2-6 災害に関する情報入手

気象災害の予防のためには、まずは気象庁が発表する注意報・警報・気象情報を積極的に聞きましよう。これらは日々発表され、テレビ・ラジオ・インターネットでも伝えていきますので、常に最新の情報を取り入れるようにしたいものです。

また、台風や豪雨の場合、おおむね、テレビやラジオの天気予報などによって危険の接近を知ることができます。

(1) ラジオ・テレビで「注意報」・「警報」情報入手

「注意報」は災害のおそれがあるときに、「警報」は重大な災害が起こるおそれがあるときに発表されます。警報の方がより警戒が必要な事態ということですが、注意報だから平気ということではありません。常にテレビ・ラジオなどの気象情報に注意し、自然災害に備えるようにしておきましょう。

●警報

<p>大雨警報</p>	<p>大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる重大な災害として、重大な浸水災害や重大な土砂災害などがあげられます。</p>
<p>洪水警報</p>	<p>大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる重大な災害として、河川が増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害があげられます。なお、河川を特定する場合は、指定河川洪水警報を発表します。</p>
<p>大雪警報</p>	<p>大雪により重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。</p>
<p>暴風警報</p>	<p>暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。</p>



<p>ぼうふうせつけいほう <b>暴風雪警報</b></p>	<p>ゆき ともな ぼうふう じゅうだい さいがい はっせい よそう はっぴょう 雪を伴う暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表しま す。「暴風による重大な災害」に加えて「雪を伴うことによる視程障害(見通しが利かな くなること)などによる重大な災害」のおそれについても警戒を呼びかけます。「大雪+ ぼうふう いみ おおゆき じゅうだい さいがい はっせい よそう 暴風」の意味ではなく、大雪により重大な災害が発生するおそれがあると予想したとき には、「大雪警報」を発表します。</p>
<p>はろうけいほう <b>波浪警報</b></p>	<p>たか なみ じゅうだい さいがい はっせい よそう はっぴょう 高い波により重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。この 「高波」は、地震による「津波」とは全く別のものです。</p>
<p>たかしおけいほう <b>高潮警報</b></p>	<p>たいふう ていき あつとう いじょう かいめん じょうしょう じゅうだい さいがい はっせい 台風や低気圧等による異常な海面の上昇により重大な災害が発生するおそれがあ ると予想したときに発表します。</p>

ちゅういほう  
● 注意報

<p>おおあめちゅういほう <b>大雨注意報</b></p>	<p>おおあめ さいがい はっせい よそう はっぴょう たいしょう さい 大雨による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる災 害として、浸水災害や土砂災害などがあげられます。雨がやんでも、土砂災害などの おそれが残っている場合は、発表を継続します。</p>
<p>こうずいちゅういほう <b>洪水注意報</b></p>	<p>おおあめ ながあめ ゆうせつ かせん ぞうすい さいがい はっせい よそう 大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想した ときに発表します。対象となる災害として、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊 による災害があげられます。なお、河川を特定する場合は、指定河川洪水注意報を 発表します。</p>
<p>おおゆきちゅういほう <b>大雪注意報</b></p>	<p>おおゆき さいがい はっせい よそう はっぴょう 大雪により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。</p>
<p>きょうふうちゅういほう <b>強風注意報</b></p>	<p>きょうふう さいがい はっせい よそう はっぴょう 強風により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。</p>
<p>ふうせつちゅういほう <b>風雪注意報</b></p>	<p>ゆき ともな きょうふう さいがい はっせい よそう はっぴょう きょう 雪を伴う強風により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。「強 風による災害」に加えて「雪を伴うことによる視程障害(見通しが利かなくなること)など による災害」のおそれについても注意を呼びかけます。「大雪+強風」の意味ではな く、大雪により災害が発生するおそれがあると予想したときには「大雪注意報」を 発表します。</p>



はろうちゆういほう 波浪注意報	たかなみ さいがい はっせい よそう はっぴょう たかなみ 高い波により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。この「高波」は、地震による「津波」とは全く別のものです。
たかしおちゆういほう 高潮注意報	たいふう ていきあつとう いじょう かいめん じょうしやう さいがい はっせい よ 台風や低気圧等による異常な海面の上昇により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。
のうむちゆういほう 濃霧注意報	こ きり さいがい はっせい よそう はっぴょう たいしやう 濃い霧により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる災害として、交通機関の著しい障害などの災害があげられます。
かみなりちゆういほう 雷注意報	らくらい さいがい はっせい よそう はっぴょう はったつ 落雷により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。また、発達した雷雨の下で発生することの多い突風や「ひょう」による災害についての注意喚起を付加することもあります。
ちゆういほう なだれ注意報	さいがい はっせい よそう はっぴょう 「なだれ」により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。
ゆうせつちゆういほう 融雪注意報	ゆうせつ さいがい はっせい よそう はっぴょう 融雪により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。
かんそうちゆういほう 乾燥注意報	くうき かんそう さいがい はっせい よそう はっぴょう 空気の乾燥により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。 ぐたいてき かさい きけん おお きしやうじやうけん よそう ばあい はっぴょう 具体的には火災の危険が大きい気象条件を予想した場合に発表します。
ていおんちゆういほう 低温注意報	ていおん さいがい はっせい よそう はっぴょう ぐたいてき 低温により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。具体的には、低温のために農作物などに著しい被害が発生したり、冬季の水道管破裂による著しい被害の起こるおそれがあるときに発表します。

## (2) 市区町村の役所からの情報入手

ふうすいがい じしん さいがい はっせい はっせい おお しちやうそん こうほう  
風水害や地震などの災害が発生、または発生するおそれがあるときなどは、多くの市区町村では、広報用の屋外スピーカーなどにより、住民に災害の発生状況を伝えたり、避難の呼びかけなどをします。テレビやラジオとともに、市区町村の役所からの災害情報にも注意しましょう。



し ぜんさいがいに 2 自然災害時

ひなん 2-7 避難

ひなん ばしよ かくにん (1) 避難場所などの確認

いちじ ひなん ばしよ 一時避難場所 いちじ しゅうごう ばしよ (一時 集合場所)	さいがいに お いちじてき み まも ひなん ばしよ こういきひなん 災害が起こったときに一時的に身を守るために避難する場所。また、広域避難 ばしよ いどう しゅうごう ばしよ しょう ちゅうがっこう きんじよ こうえん 場所へ移動するための 集合場所。小・中 学校や近所の公園。
こういき ひなん ばしよ 広域避難場所	だいしんさい かさい はっせい かくだい ひなんさき ばしよ だいきほ かさい 大震災などで火災が発生・拡大したときの避難先となる場所。大規模な火災か み まも じゅうぶん ひろ ばしよ おお こうえん し くちょうそん らも身を守れる 十分な広さのある場所として、大きな公園などが市区町 村によ さだ おお こうえん ひろば ってあらかじめ定められています。大きな公園・広場。

ひなん ばしよ ひと みどりいろん だえん はし ひなん ばしよ か もじ かんばん  
避難場所には、人が 緑 色の楕円に走りこんでいるイラストと、「避難場所」と書かれた文字の 看板 があり

ます。

さいがいに そな し くちょうそん やくしよ ぼうさい にゅうしゅ じぶん す ちいき いちじ ひなん ば  
災害時に備えて、まず市区 町 村の役所で防災マップを 入 手し、自分の住んでいる地域の 一時避難場  
しよ こういき ひなん ばしよ かくにん じたく ひなん ばしよ けいろん かくにん  
所、広域避難場所がどこなのかを確認し、自宅から避難場所までの経路を確認しておきましょう。

ひなんかんこく (2) 避難 勧告

さいがいに はっせい はっせい ちいき きけん せま ばあい しちょうそんちやう ひなんかん  
災害が発生し、または発生するおそれがあり、地域に危険が迫っている場合、市 町 村 長が「避難 勧  
こく はつれい す ちいき ひなんかんこく はつれい はつれい したが しゅうだん ひなん  
告」を発令します。お住まいの地域に「避難 勧告」が発令されたときは、発令に 従い、集 団で避難して  
ひ けむり ちか み かおく しんすい あき もくぜん きけん せま ばあい  
ださい。ただし、火や 煙 が近くに見える、家屋が浸水してきたなど、明らかに 目前に危険が迫っている場合  
じぶん はんだん じしゅてき ひなん  
には、自分の判断ですぐ自主的に避難しましょう。

ひなんほうほう (3) 避難 方法

も もの すく ある ひなん きほん こ こうれいしや びやうき ひと  
持ち物はできるだけ少なくし、歩いて避難することが基本です。子どもや高 齢者、病 気やケガの人がいれ  
みな たす あ ひなん  
ば、皆で助け合っ て避難しましょう。